

出前教育部ってご存知ですか？

板倉 範幸



いたくらのりゆき
三菱重工、新キャタピラ三菱（現キャタピラジパパン）並びに西菱エンジニアリング（現MHIニュークリアシステム・ソリューション・エンジニアリング）で過ごした40年間、一貫して建設機械の油圧シヨベルの開発・設計に従事。新キャタピラ三菱時代に、米国キャタピラー社に家族6名で駐在。退職後2011年より8年間、同志社大学生命医科学部嘱託講師として勤務。
リスクマネジメント協会GRMI(Global Risk Management Institute)-Diploma取得。趣味はスポーツ全般、落語。

前回、10周年記念誌では、私がOBネットに入会して初めて手掛けた支援活動のことに始まり、プロジェクト事業部案件では神戸市工業課委託事業のプロジェクトマネージャー（以下プロマネと称す）を拝命した経験を記載しました。あれから5年間が過ぎ、プロジェクト開発企画部長としてNIROの産業メッセや明石市産業政策課の委託事業のプロマネ等種々の経験をさせていただきましたが、この度は5年前には存在せず、会員始め団体会員の方々にもあまりなじみがない「出前教育部」の成り立ちから、具体的にどのようなことをしている組織なのか、将来的に何を目標として活動しているのかについてご紹介したいと存じます。

1. 何故出前教育部が誕生したか？

10周年の記念行事を9月に控え、それに先立つ2016年6月に「ビジョン委員会」が発足し、野田理事長（当時）、服部兄事務局長（現理事長）はじめ計6名のメンバーで8月まで活動しました。趣旨は「次の20周年に向けて、OBネットはどうあるべきか」を問うもので、私もメンバーの一人として種々提案させてもらった中で、一番力を入れたのは「教育・研修の充実」でした。そして以下の3点がビジョン委員会の中で合意形成されました。

- (1) 「教育・研修」をOBネットの3本柱に育てる（プロジェクト事業、個別支援事業と同格で教育研修事業）

- (2) これからの成長企業には必須の事業で、要望も高まるはず。一方でOBネットの力を発揮できる可能性が大
- (3) 日頃お世話になっている団体賛助会員の皆様に、割安で「教育・研修」を提供し、喜んでいただく

2. 出前教育部発足までの足取り

- (1) ビジョン委員会の概要報告が2016年9月の理事会であり、その後項目ごとに担当理事を決めて、具体的検討を開始しました
- (2) 私は「プロジェクト事業関連」と自身で提案した「教育・研修」事業に関する検討を仰せつかり、取り纏めました。
- (3) 2017年1月末の通称「有馬会議」と称する非公式な理事会で、「教育研修」に関して「部」として組織化することが議論され、名称も「出前教育部」という提案が出てきました。
- (4) 「有馬会議」での議論を踏まえ、その後の理事会で協議が進み、正式には2017年の5月15日の総会を経て「出前教育部」が正式発足し、初代の部長は私がプロジェクト開発企画部長と兼務することとなりました。

3. どんなことを担当する部署なのか？

出前教育部長として最初となる第127回理事会（5月23日）で出前教育部の所掌範囲は「従来各部門で担当・管理されていたものも含め「高校・大学の教育」「企業研修」に関わる項目を所轄、一元管理していく」方針を述べ、そのための管理様式も新規策定する旨報告しました。具体的には以下の項目です。

3.1 従来からOBネットとして実施していた「教育・研修」関連業務の窓口を「出前教育部」に一本化

以下の案件を「出前教育部」で一元管理するため、従来の各担当部長との調整に注力し、皆さんのご理解・ご協力のもと無事、以下の合意を得て、一元管理に向け邁進していきました。

- (1) 従来サポート事業部（当時）のニーズ案件として取り扱われていた「教育・研修」関連業務の一元管理。
- (2) 兵庫県経営者協会からの委託業務「高校生（職業）訓話」は従来プロジェクト事業推進部（当時）所掌を「出前教育部」に移管し、一元管理。
- (3) 従来広報部もしくは個人的対応をしていた神戸学院大学への単発的な講義への講師派遣業務の一元管理。

- (4) 従来、広報部が担当していた「補助金セミナー」の主催並びに、セミナー終了後マッチング推進部(当時)で支援アドバイザーを公募していた事項もすべて「出前教育部」で一元管理する。

3.2 新規案件の発掘

上記旧来の案件に加え、「出前教育部」として新規発掘した業務に、以下の2点があります。

- (1) SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の課題研究に関する支援業務

後述のように2016年10月ごろ(ビジョン委員会で「出前教育部」構想が出来つつある頃)から試行し、「出前教育部」発足とともに本格的支援を開始し、発展を遂げ、現在は一つの柱に成長した業務です。

- (2) ポリテク兵庫の「生産性向上訓練支援」のための研修への講師派遣業務

2018年度から支援機関として登録し、講師派遣の実績を積むと同時に、研修カリキュラムの内容充実に向け、実績を積みあげ、他の講師派遣業務の中軸に据えて運営してきました。

- (3) 大阪府工業協会の研修への講師派遣業務。但し現時点での実績は残念ながらありません。

4. 部員の公募とその活躍

上記項目(とりわけ従来の各種業務)の一元管理はかなりの作業量で、当初私と部員として中山(哲)理事の2人ではとてもこなさきれない状態となり、部員の公募をしました。他のプロジェクト案件と

違い謝金もない全くのボランティア業務に果たして応募してくれるかと懸念していましたが、全くの杞憂でした。2、3名の公募に4名が応募され、追加でもう1名公募締め切り後に応募して来てくれました。結局5名全員部員になっていただきました。

- (1) 最初のビッグイベントは「補助金申請支援セミナー」です。2018年2月23日開催に向け、何度もミーティングを開催。それまで「補助金セミナー」の顔の榎原信也ADに色々教わり、何とか自分たちでやっていけるよう、作業を分担してこなすことが出来ました。参加した企業、とりわけ個別相談を申し込まれた10社の方々には、支援指導に当たった相談員の熱意もあつて、大変喜んでいただけたと思っています。

- (2) その後は、運営のノウハウも積み上がり、部員がメンバーチェンジしても対応できるようになっています。2020年度はコロナの影響で、セミナー会場である神戸市産業振興センターの会議室が何度も使用不可のアナウンスが出て、そのたびに延期を繰り返し、結局5回の延期を経て6月23日に「3密」を回避してセミナーが開催出来ましたが、これらも部員の方々の働きが大であり、感謝しています。

5. SSH業務受託の経緯

スーパーサイエンスハイスクール制度(以下SSHと称す)の説明詳細は割愛しますが、文科省が

国際的科学技术関係人材育成のため、先進的な理数教育を実施する学校を全国的に認定し、2020年時点で全国217校が認定され、兵庫県は神戸高を幹事校として14校と、東京都、大阪府と同数校が認定され、全国的にみても盛んな活動をしています。

- (1) この発端は、2016年9月の産業メッセでOBネットのブースに神戸高校のSSH担当の先生が訪れ、「同校のSSH課題研究の支援要請」がありました。たまたま私が神戸高校の卒業生であったことと、先述したビジョン委員会で「教育・研修」の部門（出前教育部）設立の構想があつたことで、どのような内容か確認のため同校を訪問し、11月の課題研究中間報告会までに何度かSSHの研究の様子を見学させていただきました。その間卒業生だけが就任出来るSA（サイエンスアドバイザー）として中間報告会での質疑や、翌年2月の最終報告会での質疑を通じ、生徒への助言の手こたえを感じた次第です。
- (2) 2017年度は、年初から活動に参加し、6月からはOBネットの中から卒業生以外でしたが、SAを1名選出して2名で1年間、課題研究の指導・助言を行って実績を積みました。
- (3) 2018年度から神戸高校の要請で、卒業生に限らないのでOBネットのSAを増やして欲しいとの要請から5名体制を敷き、「支援ノート」により助言内容の引継ぎが出来るようにして、毎週誰かが助言できる「集団指導」を実施しました。この際神戸高校と「覚書」を交わし、2020年度まで毎年更新しています。

- (4) 生徒の研究テーマは年々高度化し、研究内容をすべて指導することはできませんが、研究のプロセスや心構えは伝授できるため、SAは皆さんやりがいをもって臨んでいただいています。神戸高校からも年々論文の質が向上したと、それなりの評価をいただいています。
- (5) 一方で、研究テーマにより、OBネットの団体会員の協力を得ることが出来ました。2019年度は日合金製作所の「竹パウダー」を提供いただき、その後の全国発表会では女子生徒が2位に入るニュースもありました。2020年度もAテクノサービスに食品の呈味成分計測の指導者の紹介をいただき、助かっています。
- (6) 神戸高校での指導状況がきっかけとなり、2017年、明石北校のSSH運営委員も仰せつかっています。
- (7) 当初はここまで発展するとは思えなかつた事業ですが、今では「出前教育部」の柱の一つと言えます。



神戸高校との覚書調印式

6. ポリテクの研修への講師派遣業務

- (1) 2018年2月に「生産性向上支援訓練実施期間認定」申請を行い、同年4月認定されました。
- (2) その後2018年～2020年にかけて8件の受託があり、支援メニューにも広がりを見せてきました。
- (3) 実績として「品質管理基礎・実践」「成果を上げる業務改善」「業務効率向上のための時間管理」「ものづくりの仕事の仕組み」「企業価値を上げる財務管理(与信)」「効果的OJT実施のための指導法」等があります。
- (4) 実績はありませんが、DX関連(TOT・AI・RPA)に関するカリキュラムはあります。

7. 補助金申請支援セミナー……広報研修部より引き継ぎ

「出前教育部」として最大のイベントであり、2018年に広報研修部から業務引継ぎ、部員全員で対応してきたかもあり、2020年では先述のようにコロナ禍でも、しっかり対応できる体制になりました。

8. 今後の課題・抱負

教育・研修プログラム全般に関して以下の取り組みをしております。

(1) 教育・研修メニューの充実

新しい技術情報(例えばIoT・AI等)を盛り込んだ内容とし、企業の求めていることにタイムリーに応じていく必要があります。

(2) 講師の発掘

OBネットの会員の中で、最新の技術に詳しい人材の発掘を、勉強会などを通して行う必要があります。

(3) 企業へのPR

教育研修メニューを充実させて、それらをホームページにアップし、広く団体賛助会員を始め多くの企業の方々に知っていただく努力が必要と思います。この中には毎年神戸学院大学で単発の講義をしている左記の教育プログラムも企業向けにアレンジしていくことが、バラエティに富んだ内容になると思います。

① 「社会人マナー」

- ② 「IoT 初歩」
- ③ 「AI 入門」
- ④ 「テレワークへの備え」
- ⑤ 「Society 5.0 入門」
- ⑥ 「SDGs 入門」

以上、これからも部員一同力を合わせ活動してまいりますので、宜しくご理解・ご協力のほどお願い致します。